



開所日時 月・水・木・金曜日
15時～18時
土曜日 10時～13時

児童デイサービス

平成 16 年 4 月に開所して今年の 3 月で 4 年が過ぎようとしています。

開所当時に利用していただいたお子さんがもう高校生になります。4 年間の療育の成果はまだまだ形となって見えてきていませんが、長い目で見ながら、あせらず、子どもたちに愛情を注ぎながら今年もご家族や学校と連携しながら支援させていただきます。



何かを語りかけている仲間

仲間を介した療育方法

「大人が子どもを 1:1 で指導する方法では子どもの社会的スキルが日常場面に定着しにくい」という研究結果が昨年 12 月に開催されたコロニー自閉症シンポジウム 2007 で発表されました。

さらに仲間による療育方法が社会的スキルを獲得し仲間と交流できるようになるという研究成果の報告がありました。

興味ある事例がここで紹介され、仲間関係づくりを積極的に支援することは大切な事であり、一宮まごころの児童デイサービスでも参考にしたいと思っております。

このような研究が進み、少しでも多くの障がい児童の支援に活かされることが望まれます。



～通院介助と通院乗降介助～

増える需要と増えない担い手・・・

▼ ヘルパーさんが足りない

高齢者や障がいを持った方にとって、通院は生活の上で大切な日課と言っても過言ではないが、足腰が弱って出かけるのに不安がある、車の乗り降りに不自由している等通院に関する介助の必要性が高まっています。けれども、介護保険では「通院介助」は介護度が高い要介護 3 以上でないと利用できず、そのため、実費利用となるケースが増え（1 時間 1,500 円位）、まごころも有償利用で受けることが目立ってきました。大病院の通院や複数の医院を受診する場合、長時間にわたるケアとなりやすく、受け手のヘルパー確保も難しくなっています。

▼ 運転手さんが足りない

通院の付き添いが介護保険では出来ない分、通院先まで車で送る「通院等乗降介助」の需要が増えています。これは、病院内は介護保険では出来ないが、車の乗り降りは保険での介助が出来るため（ただし、要支援 1・2 の方は利用できません。）せめてそれだけでも利用したいと言う要望が増えつつあります。

介護保険では 1 回の自己負担（1 割分）が 100 円、障害福祉では 99 円という利用で済みます。（福祉有償運送の運転料は別途必要）

▼ 赤字の移動サービス

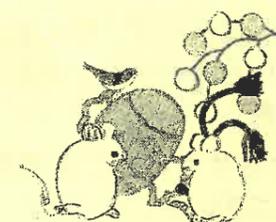
まごころの福祉有償運送の場合、ヘルパー 2 級以上の資格者がこの乗降介助に係っていますが、車の保険料や維持費の問題、見合うだけの往復のガソリン代は保険では賄えない等リスクも多く、担い手がなかなか増えません。障害福祉の場合、担う事業所が増えないどころか、辞める事業所も出てきています。（一宮市近辺で 9 事業所の登録しかありません）

事業として成り立つ報酬額であること、「通院介助」や「通院等乗降介助」は自治体の支援枠とするなど柔軟な裁量を求めたいと思えます。

心づれづれ

〔短歌〕
障りあるを同情よりも理解をと
学童に説きて二十五年過ぐ

水野伊佐雄（利用会員）



〔川柳〕
まごころでねずみ算式絆増え

羽下正一（協力会員）

「子年にちなんで句を作りました。まごころの絆でいろいろな人間関係を増やしたいですね。まごころの会員の S さん、K さんと同じ川柳の会で活動しております。興味のある方はどうぞ。」

ミニデイだより



「私は今年当たり年でねずみ年生まれ・・・」楽しく、ミニデイに参加される I さんは 84 歳。7 回も干支がめぐって来ました。

「絆を着た、かわいいネズミさん」を、描かれた I さん、きっと幸多きお年になることでしょう。

手に、障がいが残る K さんは、大きな和紙に力強く「どっこいまきてる」

M さんは、「ま」と、ご自分の名前の一部を書かれました。

「すごーい！皆さんの字、大迫力ね」スタッフは、目を見張りました。

それぞれに、力強い作品が、新春を飾ります。

「生きるのはあきらめないこと」行書体でさらりと書かれた S さん。

「ミニデイ来て病気がよくなった」と、話して下さいました。

30 分も歩いて参加の 91 歳の F さんは「いつもいつも笑えば元気になるよ」と、半紙にたっぷりの墨で書かれました。

「そのとおりね！笑わなくてはね！」と、スタッフは納得。

今年も、皆さんの作品を楽しみにしています。

